

# 公益財団法人 日本バレーボール協会

## 第5期・2014年度 事業報告書

(2014年4月1日～2015年3月31日)

### 1. 事業の概況

#### (1) バレーボール 2015 宣言

2015年1月に「バレーボール 2015 宣言」を發表しました。本会は、宣言に示したバレーボールがもつ特性である“つなぐ”をキーワードに『JVAはバレーボールの“つなぐ力”を世界に育みます』を通じて「自分のからだところの“つながり”」「自分とひととの“つながり”」「ひととひととの“つながり”」を大切にするひとを育むことを基盤とし、各種事業を執り行ってまいります。

#### (2) Project CORE

2014年6月に立ち上げました Project COREは、JVAの強化、発掘育成、指導普及の考え方を系統的にまとめたものです。これを基に指導方法の策定、普及事業の充実、長身選手の発掘そして選手強化の目的を定めてまいります。2016年のリオデジャネイロオリンピックそして2020年の東京オリンピックに向けて、Team COREを設置し、男子10名、女子8名を集中強化する強化体制を整えました。

#### (3) ビーチバレーボール事業本部

オリンピック競技でもあるビーチバレーボール競技の強化・普及・発展を目指し、2015年1月にビーチバレーボール評議会をビーチバレーボール事業本部としました。

#### (4) 主な日本代表の戦績

- ①全日本女子は2014年8月に開催されたワールドグランプリファイナルにおいて2位となり、22回の大会開催を通じて初のメダルを獲得しました。しかし、イタリアにて開催された世界選手権では第3次ラウンド進出を逃し、7位となりました。
- ②Team CORE・女子では、ジュニアチーム(U-19)がアジア選手権において2位、ユースチーム(U-17)がアジア選手権において優勝し、2015年に開催される世界選手権の出場権を獲得しました。
- ③全日本男子は9月から10月に開催されたアジア競技大会にて2位となりました。
- ④Team CORE・男子では、ユースチーム(U-18)が2位となり2015年に開催される世界選手権の出場権を獲得した。ジュニアチーム(U-20)は5位となり世界選手権の出場権を逃すことになりました。
- ⑤ビーチバレーボール競技は、南アフリカ共和国にて開催されたビーチバレーボールオープン 2014 マンガウング大会において西堀健実/溝江明香ペアが日本チームとしては14年ぶりとなる国際バレーボール連盟主催大会における銀メダルを獲得しました。
- ⑥本年度から新たにシリーズA(男女各24チーム参加)を全国5開催地にて開催いたしました。

(5) 5月に競技会外検査、12月に競技会検査において陽性反応が確認されました2件のドーピング防止規則違反の疑いは、それぞれ資格停止処分となり、本会においても制裁措置を課しました。フェアプレイの観点からもスポーツをする者としてあってはならないことであり、再発防止に向けて各種取り組みを見直し、それに基づく対応を実施しております。

(6) 体罰・暴力の窓口相談件数が、約30件あり、随時対応致しました。

(7) 決算について

本年度より四半期ごとに執行状況を分析し、費用の削減など本会、関係団体、関係者の皆様のご協力を得ながら財政改善に取り組みましたが、2020年に向けてビーチバレーボール事業を強化したことなどもあり、残念ながら10百万円の赤字となりました。

※国際バレーボール連盟（以下、FIVBという。）、アジアバレーボール連盟（以下、AVCという。）、公益財団法人日本バレーボール協会（以下、JVAという。）、味の素ナショナルトレーニングセンター（以下、NTCという。）

## 2. 事業内容

(1) 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

①日本代表チーム及び選手の育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行いました。

1) シニア男子・女子日本代表チーム強化合宿

男子は本年度最大の目標としてワールドリーグファイナル進出を掲げましたが、東京オリンピックを見据えた若手選手への大幅な切り替えの影響もあり、グループ2（グループ1から3まで3部構成の中）全12チーム中11位（韓国と同位で最下位）となりました。その後、9月に開催されたアジア大会では、開催国韓国を破り、本年開催の男子世界選手権で6位となったイランと決勝を戦い、準優勝を果たしました。

女子は、世界選手権でのメダル獲得を目標に強化し、世界選手権直前のワールドグランプリでは初の表彰台となる準優勝を果たしました。その勢いで世界選手権に臨みましたが、2次ラウンドで敗退し、セルビアと同位の7位（24チーム中）で終わりました。

◆男子：国内合宿・NTCを主会場として50日間実施。

海外合宿・欧州や南米で37日間実施。

◆女子：国内合宿・NTCを中心に54日間実施。

海外合宿・イタリア他で14日間実施。

注) シニアチームとはトップレベル選手で構成された日本代表チーム。

2) ユニバーシアード男子・女子日本代表チーム強化合宿

男子、女子共に、2015年度に開催されるユニバーシアード大会（2年に1回開催）へ向けた強化合宿を行い、男子は国際ユニバ男子対抗で優勝（6チーム中）、女子も東アジア地区女子選手権大会（7チーム中）で優勝を果たし、順調な成果を残しました。

◆男子：国内合宿を、NTCほかで30日間程度実施。

◆女子：国内合宿を、NTCほかで26日間実施。

注) ユニバーシアードチームとは主に大学生を中心に構成される日本代表チーム。

- 3) Team CORE (仮称 TOKYO2020 から変更)男子・女子日本代表チーム強化合宿  
男子は第4回アジアカップ男子大会において6位(8チーム中)、第17回アジアジュニア男子選手権(U20)において5位(18チーム・棄権2チーム中)となり、残念ながら、翌年開催の世界選手権の出場権をとることはできませんでした。  
女子は第17回アジアジュニア女子選手権(U19)において2位(15チーム中)となり翌年開催の世界選手権の出場権を獲得し、第4回アジアカップ女子大会においては4位(8チーム中)となりました。

◆男子：国内合宿・NTCほかに25日間程度実施。

海外合宿・キューバにて8日間実施。

◆女子：国内合宿・NTCを中心に81日間実施。

海外合宿・ドミニカ共和国にて8日間実施。

- 4) ユース男子・女子日本代表チーム強化合宿  
男子は第10回アジアユース男子選手権大会(U18)において2位(15チーム中)となり、来年開催の世界選手権の出場権を獲得しました。  
女子は第10回アジアユース女子選手権大会(U17)において優勝(13チーム中)し、来年開催の世界選手権の出場権を獲得しました。

◆男子：国内合宿・NTCほかに30日間程度実施。

◆女子：国内合宿・NTCを中心に28日間実施。

注) ユースチームとは男子が1995年1月1日以降に、女子が1996年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム。

- 5) ビーチバレーボール日本代表選手強化合宿  
男女共に、本年度最大の目標としてアジア競技大会メダル獲得を掲げましたが、中国、カザフスタン、タイ、インドネシアなどに一歩及ばず、2チーム出場の男子は全31チーム中2チームとも5位タイ、同じく2チーム出場の女子は全11中2チームとも5位タイとなりました。

その後、2015年度に開催されるコンチネンタルカップを勝ち抜く選手を選考するため、強化指定候補選手選考会を実施し、男子6名、女子8名の選手を選抜しました。この強化指定候補選手によりブラジル合宿、アメリカ合宿を実施し、コンチネンタルカップに向けて準備を進めました。

◆男子：国内合宿・川崎マリエンを中心に60日間実施。

海外合宿・アメリカ・ブラジルで40日間実施。

◆女子：国内合宿・川崎マリエンを中心に60日間実施。

海外合宿・アメリカ・ブラジルで40日間実施。

- 6) ビーチバレーボールジュニア男子・女子日本代表チーム強化合宿  
男女共に、キプロスで開催されたU21世界選手権に出場しました。約3か月間に亘り、基礎練習とトレーニングを行い臨みましたが、男子は31位タイ、女子は25位タイという結果となり、残念ながら良い結果を残すことはできませんでしたが、世界の強豪国に対して通用するプレーを実感できました。日本の若い世代がいち早くスタートを切り育成を進めていけるよう、今まで以上の準備をしていきたいと思っております。

◆男子：国内合宿・川崎マリエンで21日間実施。

◆女子：国内合宿・川崎マリエンで21日間実施。

注) 2014年3月に選手選考会を実施、選手を選考。

②将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) 全国小学生長身選手発掘、全国選抜中学生強化合宿事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施しました。

③競技力向上にかかるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

1) 日本代表選手の体力測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方立案と提言を行いました。

2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握を行いました。

3) トレーナーの育成、教育を行い、日本代表チームに派遣しました。

4) 日本代表チームにドクターを派遣するとともに薬剤の手配を行いました。

5) アンチ・ドーピングの啓発と普及及び研修を行いました。

6) 日本開催の国際大会及びビーチバレーボールを含む主要国内大会で、ドーピング検査を実施しました。

④日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手強化合宿の効果を検証するとともに、実戦(試合)を経て得られる技術、戦術ほか総合的な競技力向上を目的として、以下の各大会に日本代表選手団を派遣しました。

1) シニア日本代表チーム

◆男子：ワールドリーグ・2nd グループ (開催国：アルゼンチン・ドイツ・フランス・日本、開催期間：5/23～6/29)

第17回アジア競技大会 (韓国、9/20～10/4)

◆女子：モントルーバレーマスターズ (スイス、5/27～6/1)

ワールドグランプリ (トルコ、香港、マカオ、日本、8/1～8/24)

世界選手権 (イタリア、9/23～10/12)

2) ユニバーシアード日本代表チーム

◆男子：2014 国際ユニバ男子対抗 (韓国、8/11～15)

◆女子：アジア東部地区大会 (香港、7/2～7/6)

3) Team CORE 日本代表チーム

◆男子：第17回ジュニア男子アジア選手権 (バーレーン、10/17～10/25)

第4回AVCカップ男子大会 (カザフスタン、8/18～8/24)

◆女子：第17回ジュニア女子アジア選手権 (チャイニーズ・タイペイ、7/16～7/24)

第4回AVCカップ女子大会 (中国、9/6～9/12)

第17回アジア競技大会 (中国、9/20～10/2)

4) ユース日本代表チーム

◆男子：第10回ユース男子アジア選手権 (スリランカ、9/5～9/13)

◆女子：第10回ユース女子アジア選手権 (タイ、10/11～10/19)

5) ビーチバレーボール男女日本代表チーム

・ワールドツアー (世界各地で4月～12月まで開催) 14～18大会に派遣

・第17回アジア競技大会 (韓国、9/20～10/4)

6) ビーチバレーボールジュニアクラス男女日本代表チーム

・ビーチバレーボール U21 世界選手権大会 (キプロス、7/23～7/27)

・第2回 ユースオリンピック競技大会アジア予選 (タイ、4/4～4/6)

(2) 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

1) FIVB ワールドグランプリ 2014

FIVB は女子バレーボールの発展を目的として、アジアを中心に世界各地で本大会を毎年開催しています。本年も昨年に引き続き、決勝ラウンドを FIVB と協力して日本で開催しました。

- 開催期間： 8月20日(水)～8月24日(日)
- 試合数： 計15試合(1日3試合×5日)
- 参加国： 日本、ベルギー、ブラジル、中国、ロシア、トルコ
- 観客数： 8月20日(水) 7,000名(日本対ロシア)  
8月21日(木) 7,000名(日本対トルコ)  
8月22日(金) 7,500名(日本対中国)  
8月23日(土) 7,800名(日本対ベルギー)  
8月24日(日) 8,000名(日本対ブラジル)
- 最終順位： 1位：ブラジル 2位：日本 3位：ロシア  
4位：トルコ 5位：中国 6位：ベルギー  
※総合順位7位以下は省略

2) FIVB ワールドリーグ 2014

FIVB は、リーグ戦により男子バレーボールの世界一を決める大会を毎年開催しています。本年も FIVB と協力し、インターコンチネンタル・ラウンド全6週のうちホームゲーム3週を国内で開催しました。

◆インターコンチネンタル・ラウンド(第4週)

- 開催期間： 6月14日(土)、15日(日)
- 参加国： 日本、アルゼンチン
- 開催都市： 愛知県小牧市(パークアリーナ小牧)
- 観客数： 6月14日(土) 2,900名(日本対アルゼンチン)  
6月15日(日) 2,400名(日本対アルゼンチン)

◆インターコンチネンタル・ラウンド(第5週)

- 開催期間： 6月21日(土)、22日(日)
- 参加国： 日本、フランス
- 開催都市： 京都府京都市(島津アリーナ京都)
- 観客数： 6月21日(土) 2,650名(日本対フランス)  
6月22日(日) 1,900名(日本対フランス)

◆インターコンチネンタル・ラウンド(第6週)

- 開催期間： 6月28日(土)、29日(日)
- 参加国： 日本、ドイツ
- 開催都市： 埼玉県越谷市(越谷市立総合体育館)(対ドイツ)
- 観客数： 6月28日(土) 1,910名(日本対ドイツ)  
6月29日(日) 2,070名(日本対ドイツ)

◆インターコンチネンタル・ラウンド(グループ2/Pool D/4チーム)順位

- 1位：フランス      2位：アルゼンチン  
3位：ドイツ      4位：日本（グループ2 総合11位タイ）

②国際貢献・交流事業

1) FIVB 及びアジアバレーボール連盟(AVC)役員等派遣事業

世界のバレーボール統轄組織である FIVB 及びアジアの統轄組織である AVC の理事職及び競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員として、本会の代表を派遣して世界のバレーボール界発展に尽力し、国際的な貢献をいたしておりますが、本年は、FIVB 及び AVC 理事会ほか各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師派遣、各国で開催される世界大会、アジア大会ほかに競技役員、審判員を派遣いたしました。

2) 国際大会審判委員長研修会事業

FIVB では、年間、数多くの国際大会を開催する際、各大会の審判を統制する大会審判委員長の研修会が必要となり、その初回を日本で開催しました。

研修期間：4月30日～5月4日

開催場所：大阪府大阪市（大阪市中央体育館）

受講者：9ヶ国から12名の参加

タイ、プエルトリコ、アルゼンチン、アメリカ、カナダ、バーレーン、ブラジル、中国、日本

講師：FIVB 第2 実行副会長      アンドレ・メイヤー（ルクセンブルグ）

FIVB 審判委員長      ハッサン・モハメッド（エジプト）

FIVB 審判委員会主事      セルゲイ・ティトフ（ロシア）

3) 国際審判員候補認定講習会事業

2020年東京オリンピック開催に向け、1976年に開催して以来、38年ぶりとなる FIVB 公認審判員候補認定試験を日本で開催しました。

講習期日：8月25日～8月31日

開催場所：福岡県北九州市（北九州国際会議場・北九州市立総合体育館）

受講生：14ヶ国から20名の参加

オーストラリア、アゼルバイジャン、カンボジア、香港、台湾、イラン、ネパール、カザフスタン、マレーシア、エストニア、ノルウェー、エジプト、スペイン、日本

講師：FIVB 審判委員長      ハッサン・モハメッド（エジプト）

FIVB ルール委員会委員      西川友之（日本）

4) AVC 東京オフィス代行事業

2013年10月に内閣府より認定を取得し、アジア地域のスポーツマーケティングおよびバレーボール開発途上国への支援に関する代行事業を開始しましたが、2015年1月に事業廃止を届け出て、2月に内閣府より承認されました。

5) バレーボールバンク事業 ※ (10) 社会貢献事業にも同一活動の内容を記載

本年度も引き続きバレーボールバンク事業を展開し、国際友好実績として、モンゴル・カメルーン・フィリピン・エジプト・パラオ・ラオス・ミクロネシアへ合計3,381個のボールとユニフォーム及びシューズを送りました。

(3) 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

①講習会（バレーボール教室）開催事業

1) バレーボールをやってみよう～Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室

（参加者総数 2,386 名：男子児童数 387 名、女子児童数 1,182 名、保護者数 817 名）  
本会では、小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、Vリーグ選手が参加するバレーボール教室を毎年各地で開催していますが、本年度は台風のため中止となった大阪を除いて以下の 9 道県で実施しました。

北海道、秋田、群馬、神奈川、山梨、愛媛、佐賀、大分、鹿児島

2) バレーボールを上手になろう～全国小中一貫バレーボール教室

（参加者総数 438 名：選手数 373 名、指導者数 65 名）

一貫指導の充実とバレーボール人口増加を目的として、別々に実施していた小学生と中学生対象のバレーボール教室の一部を統合した小中合同のバレーボール教室を開催することに致しました。本年度は、以下の 2 道県で実施しました。

北海道江別市、新潟県刈羽村

3) 小学校、保育園等でのソフトバレーボール実践事業

（実施総数 13 カ所/参加児童総数 445 名：小学校 4 カ所/107 名、  
幼稚園・保育園 9 カ所/338 名）

幼児期にソフトバレーボールを通じてスポーツの楽しさを伝える環境作りを行うと共にソフトバレーボール指導者の育成を目的としたモニター事業を展開しました。本年度はブロックごとの開催とし、以下の 13 都道府県で実施しました。

北海道、秋田、兵庫、香川（小学校）

北海道、宮城、東京、三重、石川、兵庫、鳥取、香川、長崎（幼稚園・保育園）

②指導者養成事業

小学生指導者ほか各種別の指導者を対象に以下の養成講習会等を開催しました。

1) 全国小学生バレーボール指導者講習会

（受講者総数 2,310 名：一次 785 名、二次 809 名、三次 716 名）

本会では、小学生の指導者を対象として第一次、第二次および第三次講習会（平成 24 年度より）を毎年各地で開催していますが、本年度は以下の 17 都道府県で実施しました。

北海道、青森、岩手、宮城、栃木、茨城、埼玉、長野、奈良、和歌山、兵庫、岡山、広島、島根、熊本、宮崎、鹿児島

2) 全国中学生バレーボール指導者講習会（参加者数 450 名）

本会では、中学生の指導者を対象として全国中学生指導者講習会を毎年各地で開催していますが、本年度は以下の 12 都道府県で実施しました。

北海道、青森、宮城、埼玉、千葉、東京、山梨、岐阜、和歌山、岡山、愛媛、沖縄

3) 都道府県別バレーボール指導者研修会（参加者数 1,231 名）

各都道府県の指導者の資質向上を目的に、全国 23 府県で開催しました。

山形、宮城、福島、茨城、群馬、埼玉、神奈川、石川、静岡、岐阜、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、鳥取、島根、岡山、山口、高知、佐賀、熊本、沖縄

4) ソフトバレーボールリーダー・マスターリーダー養成講習会（参加者数 842 名）

ソフトバレーボールの指導、審判、競技運営ができる指導者の養成を目的に、東京ほか 17 都道府県で開催しました。

北海道、福島、茨城、群馬、東京、山梨、愛知、新潟、富山、岡山、広島、山口、香川、高知、福岡、佐賀、宮崎

5) ビーチバレーボール指導者講習会（参加者数 40 名）

ビーチバレーボール指導者を対象に、北海道、茨城県で開催しました。

6) 日本体育協会公認上級コーチ、コーチ、指導員のバレーボール専門科目資格取得講習会（参加者総数 225 名：上級コーチ 23 名、コーチ 35 名、大学部員対象指導員 167 名）日本体育協会からの受託事業として、上級コーチ、コーチ、指導員の資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を、東京・大阪で開催しました。

7) 本会公認講師認定講習会・公認講師研修会（参加者数 75 名）

本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象として、認定講習会を東京で、スキル向上のための研修会（公認講師研修会・スポーツ指導者研修会）を大阪で開催しました。

8) ゴールドプラン関連事業

近年の競技人口の減少は憂慮すべき事態であり、バレーボールの将来を考えると緊急かつ最大の課題となっています。特に小学生、中学生が減少しており、その原因としては、少子化、スポーツのニーズの多様化、指導者不足等々、様々なことが考えられます。この課題には横断的・総合的に対処する必要があり、本会では“ゴールドプラン”と称し、その中核となるプロジェクトチームを設立してこの課題に対して組織全体で取り組みました。

③審判員等養成事業

競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員及び技術統計判定員を養成するため、以下の講習会等を開催しました。

講習会名等	実施期間	会場	参加者数
A級審判員資格取得審査講習会	☆26年度は実施なし		
ビーチバレーボール特別A級審判員資格取得審査講習会	☆26年度は実施なし		
全国ビーチバレーボール審判講習会	26.04.12	神奈川県	50名
全国ラインジャッジ・クリニック	26.04.30～05.02	大阪府	54名
全国6人制審判講習会	27.03.22	東京都	324名
全国9人制審判講習会	27.03.29	大阪府	189名
ブロックA級審判員講習会	26.04～07	全国各ブロック	345名
Iスクール	26.06.21～09.02	大阪府他6会場	28名
ビーチIスクール	☆開催なし		
Vスクール	26.05.05～27.03.08	全国各ブロック	108名
技術統計上級判定員認定講習会	26.04.29	東京都	5名
競技会事前講習会	26.07～26.11	国内競技会開催地	551名
A級審判員研修会（6人制）	26.12.02～04 26.12.01～03	東京都 大阪府	64名 37名
A級審判員研修会（9人制）	27.01.16～18 27.01.24～25	京都府 大阪府	29名 32名

④指導者等資格認定事業

1) 指導者資格認定事業

本会では、バレーボールを正しく、安全に、楽しく指導することで、バレーボールの本質的な素晴らしさを伝えることができる指導者資格として、以下の資格の認定、登

録を行いました。

小学生バレーボール指導者資格 ソフトバレーボールリーダー

ソフトバレーボール・マスターリーダー 公認講師

## 2) 審判員資格認定事業

本会では、競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員資格として、以下の資格の認定、登録を行いました。

A 級審判員 A 級候補審判員 B 級審判員 C 級審判員

レフェリーインストラクター

## 3) 技術統計判定員資格認定

本会では、競技における技術統計記録法の適正な運用と、各種プレーの評価と判定の統一を行う技術統計判定員資格として以下の資格の認定、登録を行いました。

技術統計判定指導員 技術統計上級判定員 技術統計判定員

## (4) 全国大会等国内競技会開催事業

### ①天皇杯皇后杯全日本選手権大会開催事業（男女大会）

天皇杯・皇后杯は、昭和 25 年(1950 年)に全日本 9 人制選手権大会に下賜されて以来、平成 26 年までの 64 年間、日本国内最強のチームに授与されてきました。平成 19 年度からは中学生以上のチームならどのチームでも参加できる壮大な全日本選手権大会に生まれ変わりましたが、本年度はその 8 回目として、以下の日程で実施しました。

都道府県ラウンド：平成 26 年 4 月～8 月 各都道府県内体育館  
(984 チーム・17,712 名参加)

ブロックラウンド：平成 26 年 9 月～10 月 各地域ブロック内体育館  
(206 チーム・3,708 名参加)

ファイナルラウンド：平成 26 年 12 月 10 日～14 日 東京体育館  
(48 チーム・864 名参加)

優勝チーム：男子：J Tサンダーズ（広島）  
女子：久光製薬スプリングス（佐賀）

### ②全日本小学生大会（男女大会）

教育的配慮のもとにバレーボールを通じて全国児童の親睦と交流を図ること、バレーボールによる小学生の体力向上とたくましい意欲の養成に努めること、低学年層から正しいバレーボールの基本技術とチームプレーを体得し楽しいゲームが出来るように指導することを目的に、以下の日程で実施しました。また、今年度から男女混合の部を新設し、より多くの小学生が混合チームとして参加できるようにしました。

都道府県大会：平成 26 年 4 月～7 月 各都道府県内体育館  
(5,453 チーム・73,336 名参加)

全国大会：平成 26 年 8 月 13 日～16 日 東京体育館ほか  
(都道府県代表 138 チーム・1,772 名参加)

なお、例年同様、大会と並行して各選手村（宿泊施設）で教育活動を行いました。

優勝チーム：男子：比叡平（滋賀）  
女子：小布施（長野）  
混合：高槻 VBC（大阪）

③全国都道府県対抗中学大会（男女大会）

将来のオリンピック選手発掘と中学生バレーボールのレベルアップを図り、各チームとの交流を通して友情を深めスポーツマンシップの高揚に努めると共に、中学生指導者の研修の場とすることを目的に、本年度は以下の日程で実施しました。

◆開催期間：平成 26 年 12 月 25 日～28 日

会 場：大阪市中央体育館ほか 2 会場（96 チーム・1,152 名参加）

優勝チーム：男子：長崎県、

女子：福岡県

④全日本高等学校選手権大会（男女大会）

都道府県予選を勝ち抜いた高校日本一を決める大会として、本年度は以下の日程で実施しました。

◆開催期間：平成 27 年 1 月 5 日～7 日・10 日～11 日

会 場：東京体育館（104 チーム・1,872 名参加）

優勝チーム：男子：東福岡高等学校（福岡）

女子：金蘭会高等学校（大阪）

⑤秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（男女大会）

大学在校生で構成されたチームなら全ての大学が参加できる大会として、本年度は以下の日程で男子・女子、大学日本一を決める本大会を実施しました。

◆開催期間：平成 26 年 12 月 2 日～6 日（男子大会）

会 場：大阪市中央体育館ほか（64 チーム・1,152 名参加）

優勝チーム：男子：中央大学（東京）

◆開催期間：平成 26 年 12 月 2 日～7 日（女子大会）

会 場：大田区総合体育館ほか（116 チーム・2,088 名参加）

優勝チーム：女子：日本体育大学（東京）

⑥ J V A ビーチバレーボールシリーズ A

国内での競技性の高い大会による競技力向上を目指し、JVA ビーチバレーボールシリーズ A を新設し各地で 5 大会を実施しました。

◆開催期間：平成 26 年度 6 月 27 日～29 日

会 場：南あわじ大会（兵庫県南あわじ市）

優勝チーム男子：西村・土屋（24 チーム・48 名参加）

優勝チーム女子：草野・藤井（24 チーム・48 名参加）

◆開催期間：平成 26 年度 7 月 25 日～27 日

会 場：大洗大会（茨城県大洗町）

優勝チーム男子：長谷川・上場、清水・畑辺（24 チーム・48 名参加）

優勝チーム女子：徳丸・小野田、浦田・コバーデール（19 チーム・38 名参加）

※荒天のため決勝戦を中止し、両チーム優勝としました。

◆開催期間：平成 26 年度 8 月 1 日～3 日

会 場：グランフロント大阪大会（大阪府大阪市）

優勝チーム男子：長谷川・上場（24 チーム・48 名参加）

優勝チーム女子：西堀・溝江（24 チーム・48 名参加）

◆開催期間：平成 26 年度 8 月 15 日～17 日

会 場：湘南藤沢大会（神奈川県藤沢市）

※ビーチバレージャパンとともに開催。

◆開催期間：平成 26 年度 10 月 17 日～19 日

会 場：坂大会（広島県坂町）

優勝チーム男子：長谷川・上場（24 チーム・48 名参加）

優勝チーム女子：西堀・溝江（22 チーム・44 名参加）

⑦ビーチバレージャパン

ビーチバレーボールの日本一を決める全日本選手権大会として、本年度は以下の日程で実施しました。

◆開催期間：平成 26 年 8 月 15 日～17 日

会 場：神奈川県藤沢市鵠沼海岸

優勝チーム男子：高橋・村上（推薦）（51 チーム・102 名参加）

優勝チーム女子：西堀・溝江（推薦）（16 チーム・32 名参加）

◆開催期間：平成 26 年 8 月 21 日～24 日（女子大会）

会 場：大阪府泉南郡岬町淡輪

優勝チーム：西堀・溝江（推薦）（32 チーム・64 名参加）

⑧前記各競技大会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を実施しました。

大会名等	実施期間	会場	チーム数	選手数	優勝チーム
全日本⑨実業団女子選手権大会	26.07.11～14	新潟県長岡市	23	414	富士通テン（兵庫）
全国ママさん大会（⑨）	26.07.25～28	石川県金沢市	48	864	大松クラブ（徳島）、 渚クラブ（大阪）、 SINCE（東京）、 友輝クラブ（宮崎）
全日本⑨実業団男子選手権大会	26.07.25～28	愛媛県松山市	60	1,080	中部徳洲会病院（沖縄）
全日本⑨クラブカップ女子選手権大会	26.08.07～10	大阪府大阪市	56	1,008	佐伯長陽会 I・O（大分）
全日本⑨クラブカップ男子選手権大会	26.08.08～11	鹿児島県鹿児島市	56		台風による荒天のため中止
全国⑨社会人東ブロック男女優勝大会	26.11.07～10	秋 田 県 大 館 市・北秋田市	35 19	630 342	男子：NIPRO（秋田） 女子：REINAS（埼玉）
全国⑨社会人西ブロック男女優勝大会	26.11.14～17	広島県広島市	36 23	648 414	男子：鴨葱クラブ（鹿児島） 女子：田中外科（宮崎）
全日本⑨総合女子選手権大会	27.01.24～26	京都市	52	936	パナソニック ES ブルーベルズ（大阪）
全日本⑨総合男子選手権大会	27.01.16～19	大阪市	60	1,080	住友電工（大阪）
黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	26.05.01～06	大阪市	16 16	288 288	男子：パナソニックパンサーズ（大阪） 女子：トヨタ車体クインシーズ（愛知）
全日本クラブカップ男子選手権大会	26.08.14～17	静岡県袋井市・浜松市	64	1,152	岡崎建設 Owls（岩手）
全日本クラブカップ女子選手権大会	26.07.31～08.03	群馬県太田市	48	864	福井クラブ（福井）
全国ヤングクラブ優勝大会	26.09.21～22	大阪府門真市・大阪市	110	1,980	Winds（京都） 京都蒲公英（京都） 徳島ヤングクラブ（徳島） 盛岡ヤングバレーボールクラブ（岩手）

以上⑨は 9 人制大会、その他は 6 人制大会

全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	26.08.08～10	神奈川県 川崎市	16 16	32 32	男子：国士舘・中京 女子：神戸学院・産業能率
全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会	26.08.08～11	大阪府阪南市	52	104	中川・斎藤（大阪）
全日本ビーチバレージュニア女子選手権大会	26.08.07～11	愛媛県伊予市	48	96	藪見・坪内（京都）
全国中学生ビーチバレー大会 ※4人制	26.08.17～18	神奈川県 藤沢市	24 39	96 156	男子：広島県 女子：神奈川県
全国ソフトバレー・ファミリーフェスティバル ※4人制	26.08.08～10	千葉県船橋市	36	324	境川体協（山梨）、 Vsjr ガッツ（山梨）、 大將軍 SI（京都）
全国ソフトバレー・シルバーフェスティバル ※4人制	26.10.10～12	北海道釧路市	54	432	大阪さくら（大阪）、 西海パールズ（長崎）、 福岡キャッツ（福岡）、 KSクラブ（福岡）、YAGA-C （広島）、 あつぎクラブ（神奈川）
全国ヴィンテージ8' S 交流大会 ※8人制	26.11.07～09	沖縄県石垣市	33 14	495 210	50歳以上：湘南ヴィンテージクラブ（神奈川）、 タモト工業（沖縄） 60歳以上：富士山倶楽部（静岡）、 三重選抜 Premium（三重）

⑨本会、公益財団法人日本体育協会等との共催により、以下の大会を実施しました。

1) 国民体育大会 2014

バレーボール競技【正式競技】

日程・平成 26 年 10 月 18 日～10 月 21 日 開催地・長崎県諫早市ほか

優勝チーム：成年男子：長崎県  
成年女子：岡山県  
少年男子：福岡県  
少年女子：大阪府

2) 日本スポーツマスターズ 2014

日程・平成 26 年 9 月 20 日～23 日 開催地・埼玉県さいたま市

優勝チーム：男子：東京実連（東京）  
女子：MASAKA（大阪）

⑩本会、公益財団法人全国高等学校体育連盟との共催により、以下の大会を実施しました。

1) 全国高等学校総合体育大会男子競技

日程・平成 26 年 8 月 2 日～8 月 6 日 開催地・東京都渋谷区ほか

優勝チーム：東福岡高等学校（福岡）

2) 全国高等学校総合体育大会女子競技

日程・平成 26 年 8 月 7 日～8 月 11 日 開催地・東京都渋谷区ほか

優勝チーム：金蘭会高等学校（大阪）

3) 全国高等学校定時制・通信制大会

日程・平成 26 年 8 月 4 日～8 日 開催地・神奈川県平塚市

優勝チーム：男子：天理高等学校（大阪）  
女子：天理高等学校（大阪）

⑪本会、公益財団法人日本中学校体育連盟等との共催により、以下の大会を実施しました。

全日本中学校選手権大会（男女大会）

日程・平成 26 年 8 月 22 日～25 日

開催地・高知県南国市ほか

優勝チーム：男子：足立区立湊江中学校（東京）

女子：金蘭会中学校（大阪）

※台風等の天候不順のため大会が中止及び短縮されることがありました。

#### (5) マーケティング事業

公益目的事業を安定的に推進すべく、バレーボールの社会的な価値や本会事業の推進に賛同いただいている協賛社とのパートナーシップの強化及び新規協賛社の獲得に向け積極的に活動を行いました。昨年度で契約が終了したパートナー企業との契約も更新し、財源を確保しました。

また、本会が所有する各種標章の無断及び不適切な使用がないよう適切な管理運営を実施するとともに、全日本選手の肖像権等の管理運営を行い、無体財産の価値向上に努めました。

#### (6) バレーボール用品・用具の公認及び公認物品販売事業

競技の公正、安心・安全など競技者が楽しくプレーできるようにボール、ネット等の用品・用具の検定及び認定を行うとともに、競技者及び体育施設等へより良い用品・用具が提供されるよう、販売・製造事業者へ働きかけを行いました。特に、今年度よりネットの張り過ぎによる支柱等の破損による事故を防ぐため、「テンションゲージ」を導入しました。

公認審判員・判定員やソフトバレーリーダーなどに対しては、資格保有者としての自覚を促すため、公認物品の販売を通してその着用を推奨し、また、JVA 関係者を対象に「JVA バッジ」の販売を引き続き行いました。

#### (7) 出版物等販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール 6 人制競技規則、同 9 人制競技規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則の出版販売を行いました。また、購入者がより購入しやすい方法として、インターネットによる販売を行い、浸透・定着してきています。

#### (8) V リーグ開催及び開催支援事業

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構が主催する V リーグについて、東京における開催権を取得し、バレーボールの普及、振興に合わせ、本会が行う公益目的事業の遂行に必要な財源調達を図ることを目的として開催しました。

#### (9) 地域グループ育成強化事業

本会の加盟団体である都道府県バレーボール協会等に交付金を交付することで、加盟団体が行う公益目的事業の遂行や団体管理運営に必要な経済的支援を行いました。

## (10) 社会貢献事業

①ボール、バレーボール用具の収集事業 ※(2)バレーボールバンク事業にも同一活動の内容を記載  
活動名称：バレーボールバンク活動の認知を高める広報活動事業を行いました。

1) 本会主催大会会場でのブース展開（リーフレット配布、パネル、ポスター、バナーの掲出、プロモーションビデオの上映など）、及びバレーボールバンク公式ホームページでの活動報告、バレーボールバンク関連 SNS ツールを活用しました。

2) 広報活動を実施した本会主催大会（3大会にて実施）

- ・天皇杯・皇后杯全日本選手権大会
- ・第 28 回全国都道府県対抗中学大会
- ・第 67 回全日本高等学校選手権大会

3) 収集事業

第 34 回全日本小学生大会時に参加全チームよりボールのご協力をいただきました。

収集ボール数 1,810 個（2010 年からのボール収集累計 9,377 個）、その他、ネット・ユニフォーム・シューズ等のご協力をいただきました。

## ②環境問題

1) 地球温暖化防止の国民運動を受けて、本会が主催するすべての全国大会の会場のバナーおよび大会プログラムに活動内容を掲出し、地球温暖化防止の啓発活動に努めました。

2) 各種事業（競技会・講習会等）にてゴミの分別を行いました。

3) 12 月に開催された天皇杯・皇后杯において、株式会社音力発電のご協力により来場者の方に音や振動から発電が手軽にできることを伝え、環境啓発活動を展開いたしました。

## (11) 広報活動事業

①バレーボール愛好者はもとより青少年や社会人、熟年世代にスポーツを「する」「観る」「支える」の楽しさや素晴らしさを伝える広報活動を WEB サイト及び SNS ツールを活用して充実させました。

②ファンの方を対象に「バレとも」有料サイトを立ち上げ、全日本の活動の様子や写真のダウンロードサービスおよびチケットの優先販売を行いました。

## (12) その他

①公益財団法人日本体育協会が推進する国民スポーツ振興事業に対して積極的に協力しました。

②公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）と東京都が設置した、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に対して積極的に協力しました。オリンピック事前合宿の受け入れに対しての対応を行いました。

以上